

慈善団体 《希望のゆりかご》 ペルミ

《命の窓》 in ロシア
ベビーボックス in ロシア



социальный проект
**Колыбель
надежды**
www.babyboxrf.ru

慈善団体「希望のゆりかご」

ロシアでのベビーボックスの歴史

1716年

ピョートル1世の愛妹ナタリアは慈善家として有名でした。ナタリアの死後、ピョートル1世は彼女の開いた養老院に「建物の外側に、親の名を明かさずに子どもを預けることができる場所をつくり、預けられた子たちを育てるように…」と命じました。

1764年

ロシア初の「ベビーボックス」は18世紀、エカテリーナ2世の時代に始まりました。それと同時に、貧困に苦しむ妊婦のための病院と、その病院付属の孤児院が開設されました。

望まれない妊娠で生まれた子どもたちは、その他にも教会や病院の一時子ども保護施設に預けられていました。

ロシアでのベビーボックスの歴史

1917 - 1949年

ソ連時代、子どもの社会的養育機関はありませんでした。しかし「社会的支援委員会」（カウンセリング等の機関）が設けられ、右のようなポスター等で捨て子防止キャンペーンが大々的に繰り広げられました。

2011年

ソ連崩壊後、2011年にロシア初のベビーボックスがペルミ地方（ペルミ市）とクラスノダール地方（ソチ市）で設置されました。

養育に関する問題

衝撃的で残酷な事件が
ベビーボックス設置のきっかけとなった

2010年

ペルミ市で起きた大規模住宅火災の後、消防士がある被災家屋のバルコニーで、焼け焦げた新生児の女子2人の遺体を発見しました。

この家の31歳の母親が、その赤ちゃん2人を年子で生んでいたのです。

母親によると、すでに彼女には3人の子どもがおり、家計を支えているのは夫のみで、親族はさらに子どもを持つことに反対すると考えていました。

そして彼女は2人の赤ちゃんの遺体を夏は冷凍庫に、冬はバルコニーに隠していました。

当時ロシアには、望まない子どもを匿名で親権放棄する方法がありませんでした。

ロシア初のベビーボックス開設

ペルミ地方,
ペルミ市

2011年10月
慈善団体「希望のゆりかご」
が中心となって開設。

ロシアにおける現在のベビーボックス

プロジェクトはロシア10地域に支持されています。
現在、19か所でベビーボックスが稼働しています。

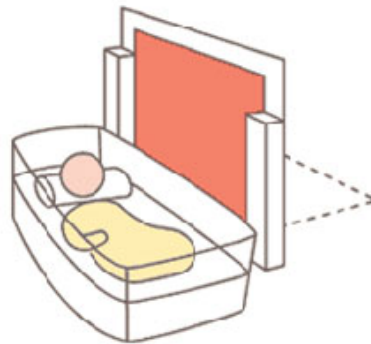
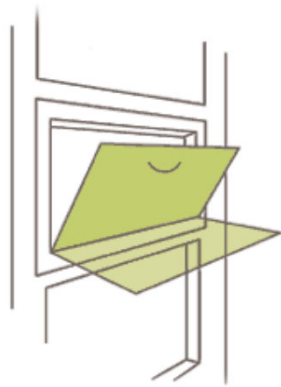


- ベビーボックス稼働中の地域
- ベビーボックスが閉鎖された地域
- ベビーボックスがない地域

ベビーボックスに関する統計

- ロシアでのベビーボックス開始から今まで78人の子どもたちが救われました。
- そのうち12人が実の親や親族に引き取られました。
- そして66人の子どもに養子縁組が結ばれました。

ベビーボックスの仕組み



情報提供による支援

各ベビーボックスには情報掲示板を設置しています。

そこには電話相談の番号やカウンセリング機関、各公認宗教団体の電話番号を表示。さらに、子どもをベビーボックスに預ける決断をした人へ、もう一度よく考えてみるように呼び掛けるメッセージを掲載しています。

ベビーボックス周辺には防犯カメラや警備員を置いていません。

子どもがベビーボックスに預けられた後の 対応

1. 医師が診察し、子どもの体調を評価して各検査を行います。
2. 必ず警察に通報。警察はその子の捜索願が出ていないか確認。その子が行方不明者ではなく、親も明らかにしなければ「迷子または捨て子発見調書」を作成します。
3. 必ず児童保護管理局に報告。
4. 子どもがベビーボックスに預けられた時点から、その子は政府の保護下にあります。

ベビーボックスに預けられた子どもの 母親や家族は、養子縁組が成立するまで その子を引き取ることができます

児童保護管理局に 相談する方法

- * 当団体または児童保護管理局に、引き取り申請を行います。
- * その後、児童保護管理局が家庭状況や書類を詳しく調査し、引き渡しが決定的れば引き取ることができます。

裁判所に申請する方法

- * 血縁関係の証明を行うために裁判所に申請します。
- * DNA鑑定で、血縁関係を証明。

ロシアでは、12人の赤ちゃんが実の親に引き取られました



「私の歴史」の箱

- 赤ちゃんがベビーボックスに預けられた日付、時間、施設名の記録
- ベビーボックスで最初にその子を抱きあげた医師名の記録
- ベビーボックスの中に一緒に置かれていた服や物
- その子と家族をつなげる写真や書類、その他

これら全てのものが当団体「希望のゆりかご」で保管、または児童保護管理局に預けられます。

議論と協力

当団体は、困難を抱えた妊婦や母子の相談を受けてきた経験をもとに、女性が親権放棄する前に支援を行えるよう、この問題を国レベルで討議するために提議をはじめました。

慈善団体「希望のゆりかご」理事長コトヴァ・エレナは下記の組織のメンバーです。

- ✓ ロシア連邦 子どもの権利問題担当大統領全権付き諮問委員会
- ✓ ペルミ地方 子どもの権利問題担当全権付きワーキンググループ
- ✓ ペルミ地方検察捜査本部 児童問題委員会
- ✓ ペルミ地方社会発展省 地域評議会

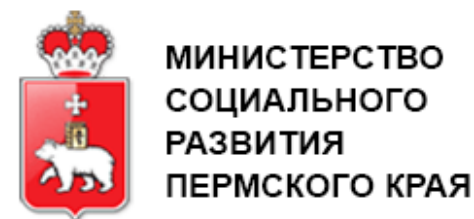


МИНИСТЕРСТВО
СОЦИАЛЬНОГО
РАЗВИТИЯ
ПЕРМСКОГО КРАЯ

妊婦と母子のための危機救済センター開設

2012年、慈善団体「希望のゆりかご」とペルミ地方社会発展省が中心となり、ペルミ地方で最初の「困難を抱えた妊婦と母子のための危機救済センター」（以後、妊婦と母子の危機救済センター）を設立しました。その後、ベレズニキ市とチャイコフスキー市の計2か所に、妊婦と母子の危機救済センターを開設しました。

このセンターは行政機関や個人の支援で成り立っています。センターは虐待や暴力を受けたり、生活に困難を抱えている母子にシェルターを提供しています。



(ペルミ地方社会発展省)



相談件数

2011年からペルミ地方で 26697もの家族が
人道援助、カウンセリング、法的援助を受けました。

2012年からペルミ地方の「妊婦と母子の危機救済センター」は
781人（うち子ども416人）
にシェルターを提供しました。

ペルミ市- 計475人：うち女性211人、子ども264人
ベレズニキ市- 計209人：うち女性100人、子ども109人
チャイコフスキー市 - 計97人：うち女性54人、子ども43人

2017年、当団体では困難を抱えた家庭から450件の相談がありました。



社会的孤児や嬰兒殺しの防止

慈善団体「希望のゆりかご」は社会的孤児や嬰兒殺しの防止活動を行いながら、社会的孤児等の発見に努めています。

社会的孤児の防止

2016年、慈善団体「希望のゆりかご」は支援団体とともに、
社会的プロジェクト「幸せを選ぼう！」を実施

社会的孤児や中絶防止のため、ペルミ地方の産婦人科や産院に27の情報
掲示板を設置しました。掲示板には女性への呼びかけ、そして困難を抱えた
家庭を支援する団体の電話番号が掲載されています。

このプロジェクトには、ペルミ地方から10団体が参加しています。

ペルミ地方の 多子家庭・貧困家庭への人道支援

当団体は妊婦だけでなく、困難を抱えた子育て家庭の支援も行っています。

当団体はペルミ地方で唯一の、全ロシア食糧支援団体「ルーシ」との継続的パートナーです。



困難を抱えた人のための多機能支援センター



ベビーボックスに関する7つの法案

賛成

㊦ 2011年9月

生後6か月以内における、匿名での乳児の親権放棄の許可、および「子どもを匿名で預ける場所」に子どもを預けた母親の追跡を禁止する法案ー 2013年却下

㊦ 2015年8月

1歳以下の乳児をベビーボックス等に預けることを許可し、非営利団体によるベビーボックス設置を許可する法案。ー 審議されず

㊦ 2015年12月

自治体の判断による、匿名で新生児を預ける場所の設置に関する法案ー 採択されず

㊦ 2017年3月

ロシア各地域がベビーボックス設置の法的許可を独自に行い、設置数や場所・運営方法を決定することを認める法案ー 修正のため差し戻し

㊦ 2017年12月

現在、上記の法案を再審議中

反対

✖ 2015年9月

ベビーボックスの設置や運営に関する刑事的責任を規定する法案
ー 審議されず

✖ 2016年6月

匿名で子どもを預ける場所の設置に関する活動の禁止。これに違反した場合、100万～500万ルーブルの罰金、または団体の活動を90日間停止させる法案
ー 修正のため差し戻し

嬰兒殺しに関する研究

2016年、慈善団体「希望のゆりかご」はロシア大統領の支援のもと、パートナー団体とともに総合的な社会学的研究を行いました。

「嬰兒殺しの社会的・心理的背景、およびその防止メカニズムの研究」

ロシア連邦市民議会のフォーラム
「ロシア連邦における（母親による）嬰兒殺の原因と予防」で
この研究結果を報告しました。

嬰兒殺し問題の研究

「リスクグループ」にある女性の社会的・心理的特徴をつかむため、ロシア刑法第106条「母親による嬰兒殺」の罪にあたる事件を152件分析しました。

事件関係者10人に詳しいインタビューを行いました。

第1グループ：犯行を行った女性の知人、友人、親類

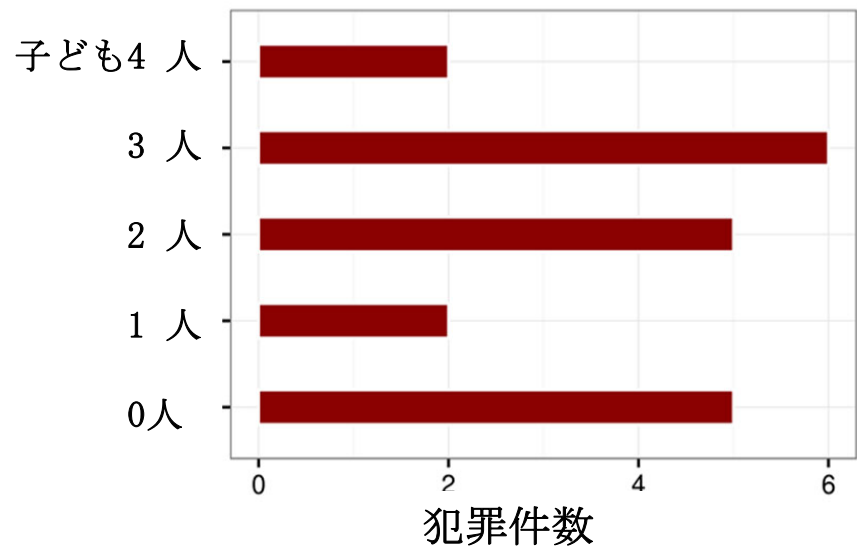
第2グループ：医師、医療従事者、警察官、ソーシャルワーカー、
妊婦と母子の危機救済センタースタッフ

第3グループ：研究者、社会福祉分野の行政機関職員、
地方議会議員（社会福祉政策の専門）、社会活動家、マスコミ関係者

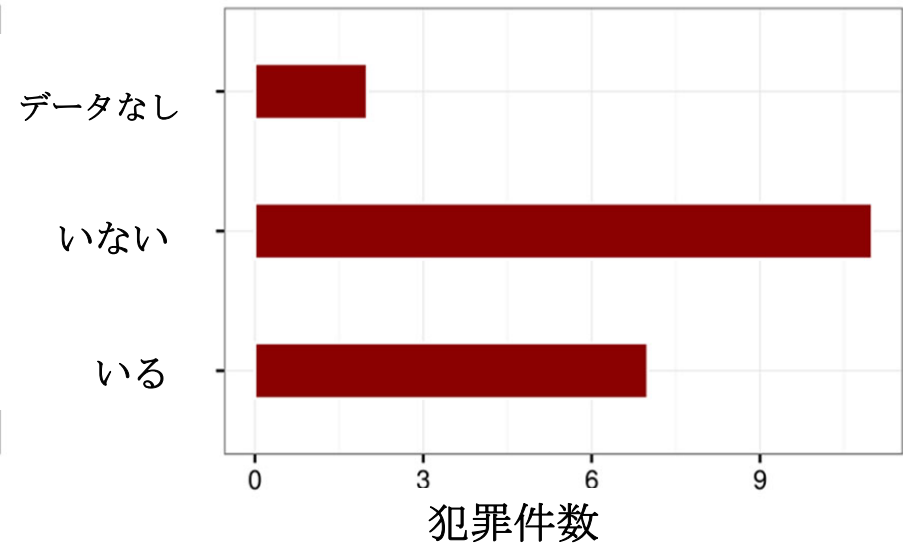


「リスクグループ」の女性の 社会的・心理的特徴

子どもの有無

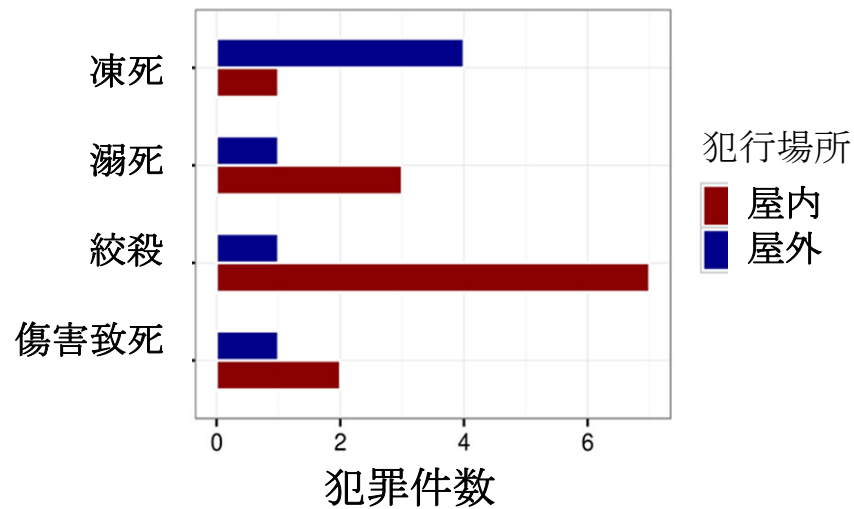


夫・内縁の夫の有無

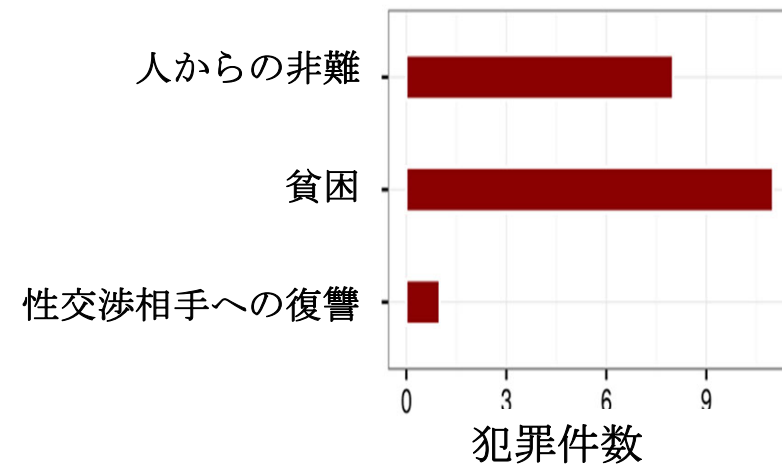


ロシア刑法第106条についての分析 (母親による嬰兒殺)

犯行方法・場所



犯行の動機



ロシア連邦議会 下院でのフォーラム

2016年11月29日 ロシア下院で行われた、
新生児の親権放棄防止 および困難を抱えた妊婦
への支援に関するフォーラムで、慈善団体「希
望のゆりかご」理事長コトヴァが

「（母親による）新生児の親権放棄防止のため
の最新のアプローチ：専門分野間の相互協力」
というテーマで報告を行いました。



ウィキペディア

https://ru.wikipedia.org/wiki/Бэб-бокс

ロシアでの「ベビーボックス」という新しい概念について、当団体は2015年にウィキペディアに「ベビーボックス」のページを作成しました。

私たちは他国の例や統計、そして「ベビーボックス」の機能に関する法律・規制などを研究し続けています。

ロシアの「ベビーボックス」は、ラトビアの例をもとに設置を行いました。

Википедия
Свободная энциклопедия

Заглавная страница
Рубрикация
Указатель А — Я
Избранные статьи
Случайная статья
Текущие события

Участие
Сообщить об ошибке
Сообщество
Форум
Свежие правки
Новые страницы
Справка
Пожертвовать

Инструменты
Ссылки сюда
Связанные правки
Спецстраницы
Постоянная ссылка
Сведения о странице
Цитировать страницу

Печать/экспорт
Создать книгу
Скачать как PDF
Версия для печати

В других проектах
Викисклад
Элемент Викиданных

На других языках
Deutsch

Статья Обсуждение

Читая Править Править код История

Искать в Википедии

Бэб-бокс

Материал из Википедии — свободной энциклопедии

В этой статье не хватает ссылок на источники информации.
Информация должна быть проверяема, иначе она может быть поставлена под сомнение и удалена.
Вы можете **отредактировать** эту статью, добавив ссылки на авторитетные источники.
Эта отметка установлена 28 сентября 2016 года.

Бэб-бокс или **бэби-бокс** (англ. *Baby hatch* — букв. перевод — «люк/приёмник для детей»), «окно жизни» — специально оборудованное место для анонимного отказа от ребёнка и передачи его на попечение государственным службам и органам. Может располагаться при медицинских учреждениях (государственных и частных), при религиозных организациях.

Содержание

1

Механизм работы

2

История

2.1

Италия

2.2

Германия

2.3

Франция

2.4

Португалия

2.5

Великобритания

3

Причины, по которым используются бэби-боксы

4

Правовые аспекты

4.1

Австрия

4.2

Чехия

4.3

Франция

4.4

Германия

4.5

Япония

4.6

Великобритания

4.7

Бельгия

5

Практика в разных странах

6

Критика

7

Положительные оценки

8

Примечания

Бэб-бокс в Екатеринбурге в стене храма во имя Святителя Иннокентия (май 2017 года, вид снаружи)

社会・人々の支持

3週間で25万人以上のロシア国民が、Change.orgのサイトで「ベビーボックス禁止法案」に反対する請願書に署名しました。

この請願書は、ロシア大統領子どもの権利問題担当全権のクズネツォヴァ・アンナ女史に送られました。

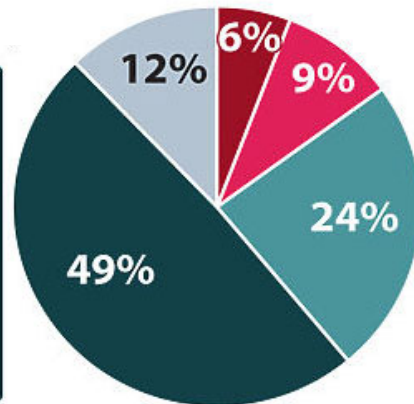
「ベビーボックスを廃止しないで！」 請願書（291882人が参加、終了）
先日承認されたベビーボックス禁止法案は、SNSで大きな議論を呼びましたが、私はこのような間違いを犯さないために自分の意見を伝えたいのです。

ロシア全域での世論調査

全ロシア世論調査センター（略：VCIOM）は、ベビーボックスについてのロシア人の考えについて世論調査を行い、データを公開しました。

約75%のロシア市民が「ベビーボックスは必要だ」と考えています。

「ベビーボックスを禁止することについてどう思いますか？」
(VCIOMの世論調査結果)



73%のロシア人が、ベビーボックスの存在を知っている。その性別・年代の内訳は

- 女性 79%
- 男性 66%
- 若者～中年（18歳～34歳） 66-68%
- 熟年世代以上（45歳以上） 77-76%

アンケート回答者の42%が、「ベビーボックスの禁止は捨て子の増加を助長する」と回答。

お問い合わせ

理事長

エレーナ コトヴァ

www.еленакотова.рф

Kotova Elena Yurevna
the phone number 89197023999

www.babyboxrf.ru

2444499@mail.ru

+7 (342) 244-44-99

ご清聴ありがとうございました。

